

ボーリングデータ予定調査ポイント
A点: 座標点K34から35m、座標点K28から80m
B点: 座標点K14、K114からそれぞれ40m

配置図

※本図は、本地质調査業務仕様書に付随する調査地点配置図を基に作成した。

ボーリング柱状図

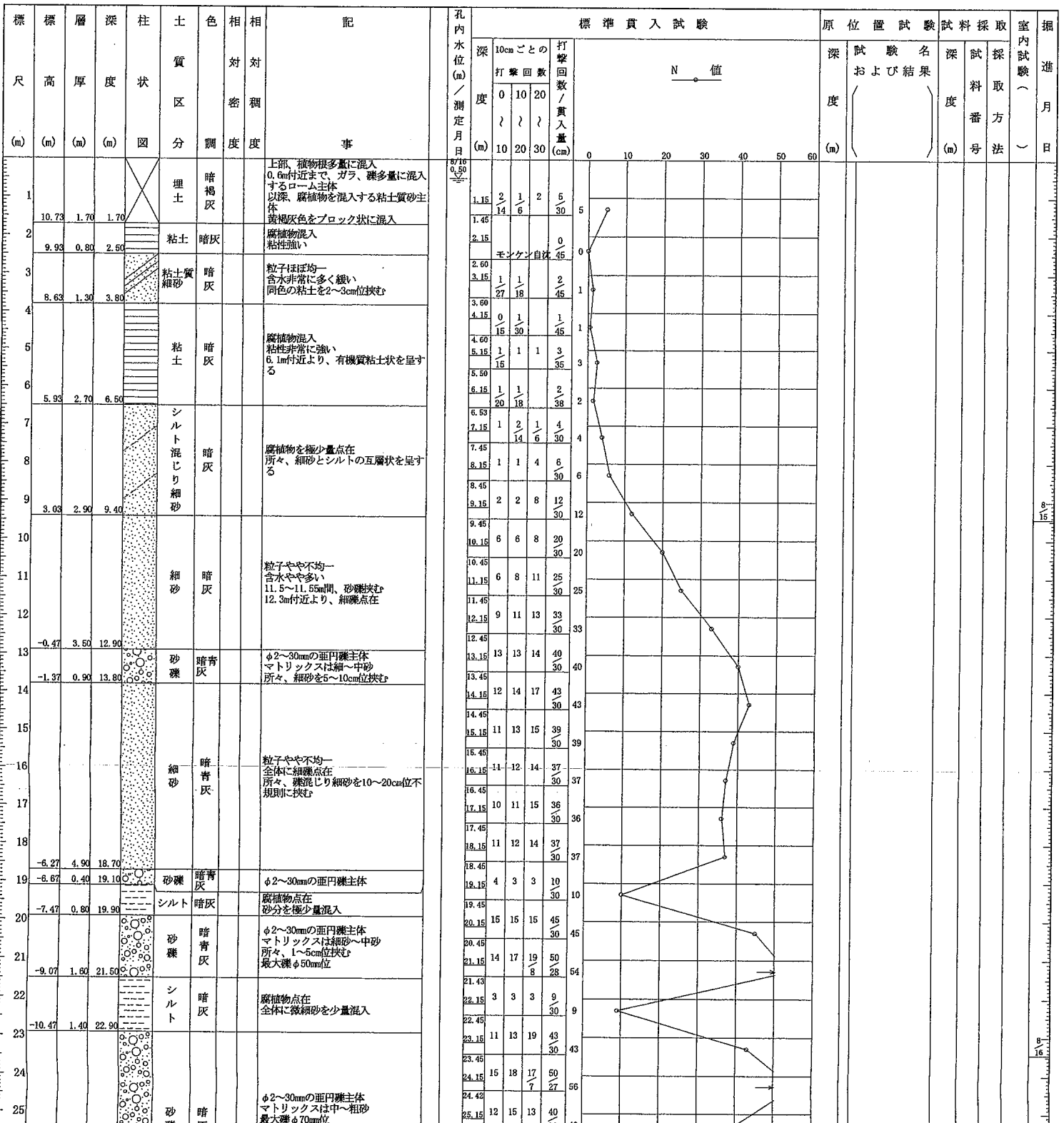
調査名

事業・工事名

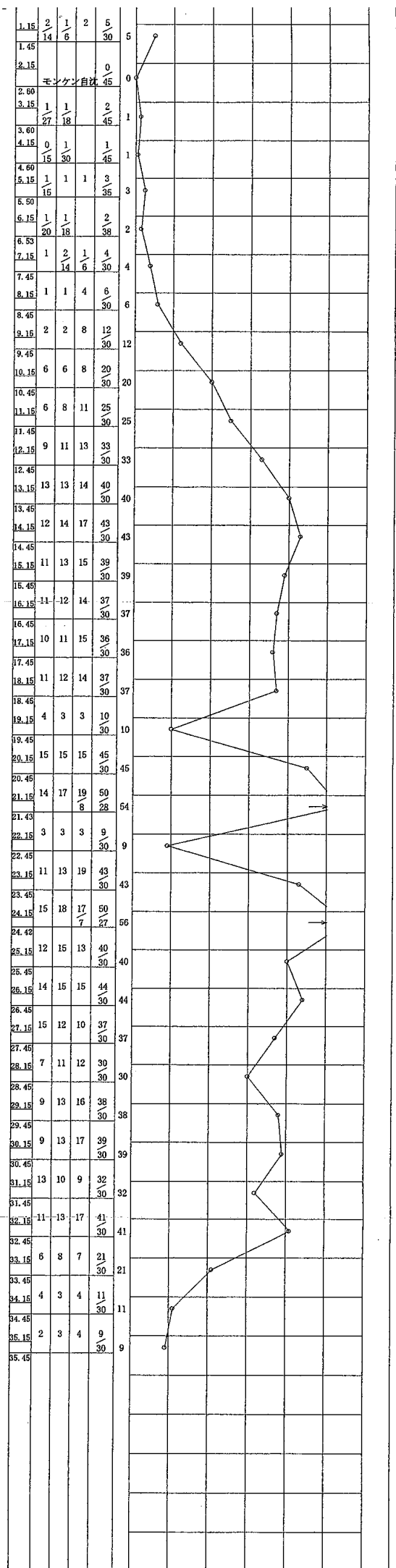
ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

シートNo.

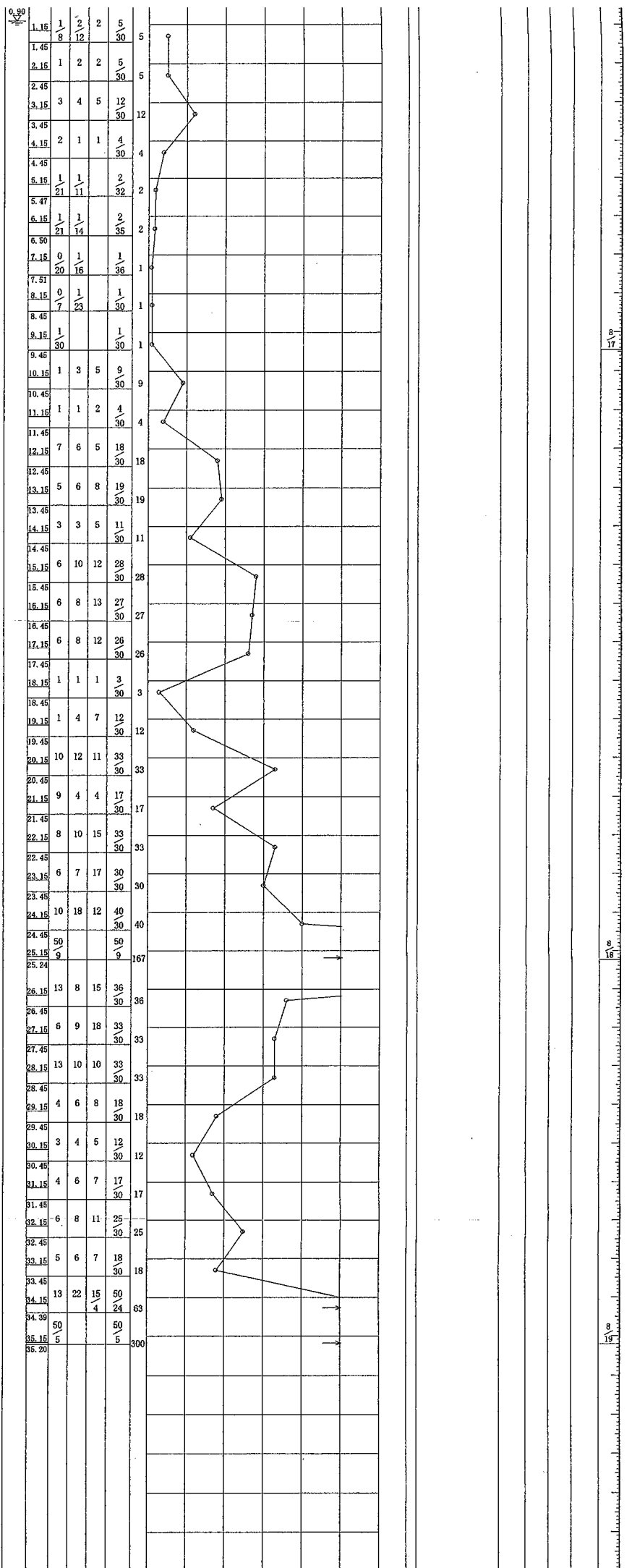
ボーリング名	No. 1 (A点)			調査位置	埼玉県川越市大字菅間18番地1ほか			北緯				
発注機関				調査期間	平成 17年 8月 15日 ~ 17年 8月 17日			東経				
調査業者名				主任技師				現場代理人	コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	T.P. +12.428m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	KR-100 (KANO)		ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	35.45m	度		向				エンジン	NFD-10		ポンプ	V-6



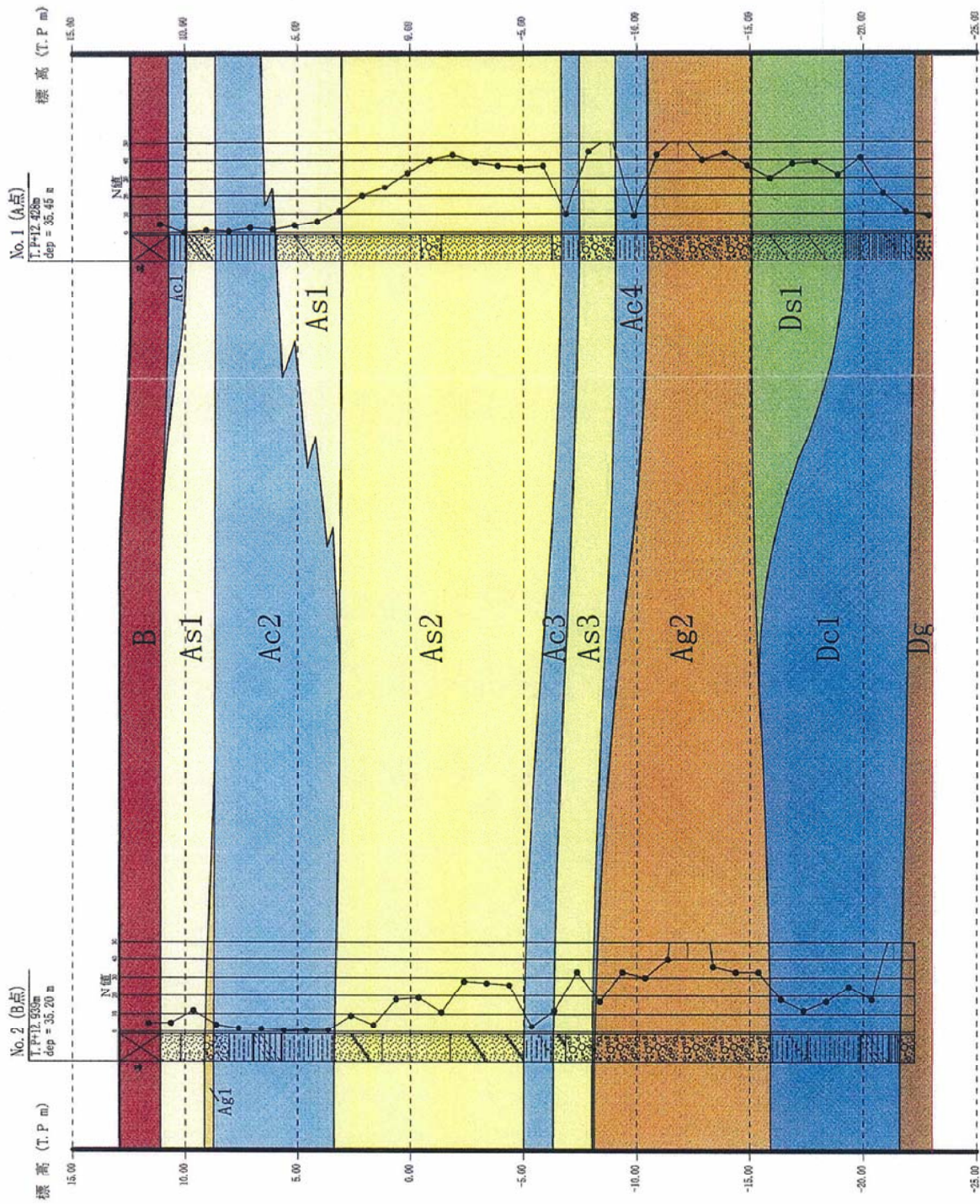
1	10.73	1.70	1.70	埋土	褐灰	するローム主体 以深、腐植物を混入する粘土質砂主体 黄褐色をブロック状に混入
2	9.93	0.80	2.50	粘土	暗灰	腐植物混入 粘性強い
3	8.63	1.30	3.80	粘土質 細砂	暗灰	粒子ほぼ均一 含水非常に多く緩い 同色の粘土を2~3cm位挟む
4						
5				粘土	暗灰	腐植物混入 粘性非常に強い 6.1m付近より、有機質粘土状を呈する
6	5.93	2.70	6.50			
7				シルト 混じり 細砂	暗灰	腐植物を極少量点在 所々、細砂とシルトの互層状を呈する
8						
9	3.03	2.90	9.40			
10						
11				細砂	暗灰	粒子やや不均一 含水やや多い 11.5~11.55m間、砂礫挟む 12.3m付近より、細礫点在
12						
13	-0.47	3.50	12.90	砂礫	暗青灰	φ2~30mmの歪円礫主体 マトリックスは細~中砂 所々、細砂を5~10cm位挟む
14	-1.37	0.90	13.80			
15				細砂	暗青灰	粒子やや不均一 全体に細礫点在 所々、礫混じり細砂を10~20cm位不規則に挟む
16						
17						
18						
19	-6.27	4.90	18.70	砂礫	暗青灰	φ2~30mmの歪円礫主体
20	-7.47	0.80	19.90	シルト	暗灰	腐植物点在 砂分を極少量混入
21	-9.07	1.60	21.50	砂礫	暗青灰	φ2~30mmの歪円礫主体 マトリックスは細砂~中砂 所々、1~5cm位挟む 最大礫φ50mm位
22				シルト	暗灰	腐植物点在 全体に微細砂を少量混入
23	-10.47	1.40	22.90			
24						
25				砂礫	暗灰	φ2~30mmの歪円礫主体 マトリックスは中~粗砂 最大礫φ70mm位 上部、シルトを薄く不規則に挟む 全体に含水やや多い
26						
27	-16.07	4.60	27.50			
28				シルト 混じり 微細砂	暗灰	粒子非常に細かく均一 所々、シルトを2~3cm位の薄層で不規則に挟む また細砂を5cm位不規則に挟む 全体に腐植物を少量点在
29						
30						
31	-19.17	4.10	31.60			
32	-19.87	0.70	32.30	硬質シルト	暗灰	全体に硬質である 微細砂を少量混入
33	-20.27	0.40	32.70	微細砂	暗灰	粒子非常に細かく均一
34	-21.67	1.40	34.10	砂混じり硬質シルト	暗青灰	腐植物を極少量点在 一様に硬質なシルトである
35	-22.27	0.60	34.70	シルト質粘土	暗灰	有機物及び炭化物混入 浮石細粒を少量点在
36	-23.02	0.75	35.45	火山灰質砂	黄褐色	34.7~35.0m間、礫混じり砂 35.0~35.3m間、火山灰質粘性土 以深、礫混じり中砂主体
37						
38						
39						
40						



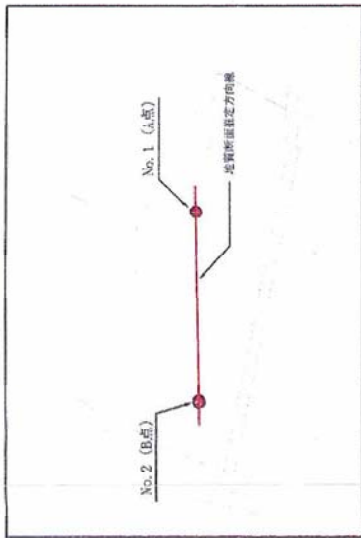
1				埋土 暗褐 褐灰	量に混入する粘性土主体 0.8~1.4m間、有機物を混入するシルト主体 以深、火山灰質粘土状を呈する
2	11.09	1.85	1.85	細砂 褐灰	粒子不均一 含水非常に多い
3	10.19	0.90	2.75	細砂 暗灰	粒子ほぼ均一 含水やや多い
4	9.14	1.05	3.80	砂礫 暗灰	φ2~30mmの面門礫主体 最大礫φ40mm位 シルトを一緒に混入
5	8.74	0.40	4.20	シルト質細砂 暗灰	粒子ほぼ均一
6	8.04	0.70	4.90	シルト 暗灰	腐植物点在 非常に軟質である
7	6.99	1.05	5.95	シルト質粘土 青灰	粘性非常に強い 7.2m付近、細礫点在
8	5.68	1.30	7.25	シルト 暗灰	全体に砂分を少量混入 非常に軟質である 腐植物少量点在
9					
10	3.39	2.30	9.55	礫混じり細砂 暗灰	粒子やや粗く不均一 φ2~20mmの礫を所々多く混入 シルトをレンズ状に極少量混入 11.0m付近、細砂とシルトの互層状を呈する
11	1.24	2.15	11.70	細砂 暗灰	粒子やや粗く不均一 φ2~15mmの細礫を所々不規則に混入 13.0m付近より、粒子細かくなり均一となる
12					
13					
14					
15	-1.76	3.00	14.70	礫混じり細砂 暗灰	粒子やや粗く不均一 φ2~15mmの礫を所々多く混入 含水非常に多く、局所的に緩い
16					
17					
18	-5.01	3.25	17.95	砂混じりシルト 暗灰	砂分を一緒に少量混入 腐植物を少量点在 やや軟質である
19	-6.31	1.30	19.25	礫混じり細砂 暗灰	φ2~40mmの面門礫混入 最大礫φ80mmの礫混入
20	-6.88	0.55	19.80		
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29	-15.91	9.05	28.86	砂混じりシルト 暗灰	有機物、腐植物点在 砂分を所々多く混入 全体にやや硬質である
30	-17.56	1.65	30.50	シルト 暗灰	腐植物、炭化物点在 シルトはほぼ均質であるが、やや硬質である
31	-19.88	2.30	32.80	シルト質粘土 緑灰	全体に粘性強い 色調不均一 浮石細粒を少量点在
32					
33	-21.16	1.30	34.10	砂混じり硬質粘土 暗褐灰	炭化物点在 全体に火山灰質状を呈する
34	-21.61	0.45	34.55	砂礫 暗褐灰	φ2~30mmの面門礫主体 マトリックスは中~粗砂 最大礫φ50mm位
35	-22.28	0.65	35.20		
36					
37					
38					
39					
40					



地層推定断面図 (H=1:600/1/1:200)



調査地点位置図 (尺度任意)

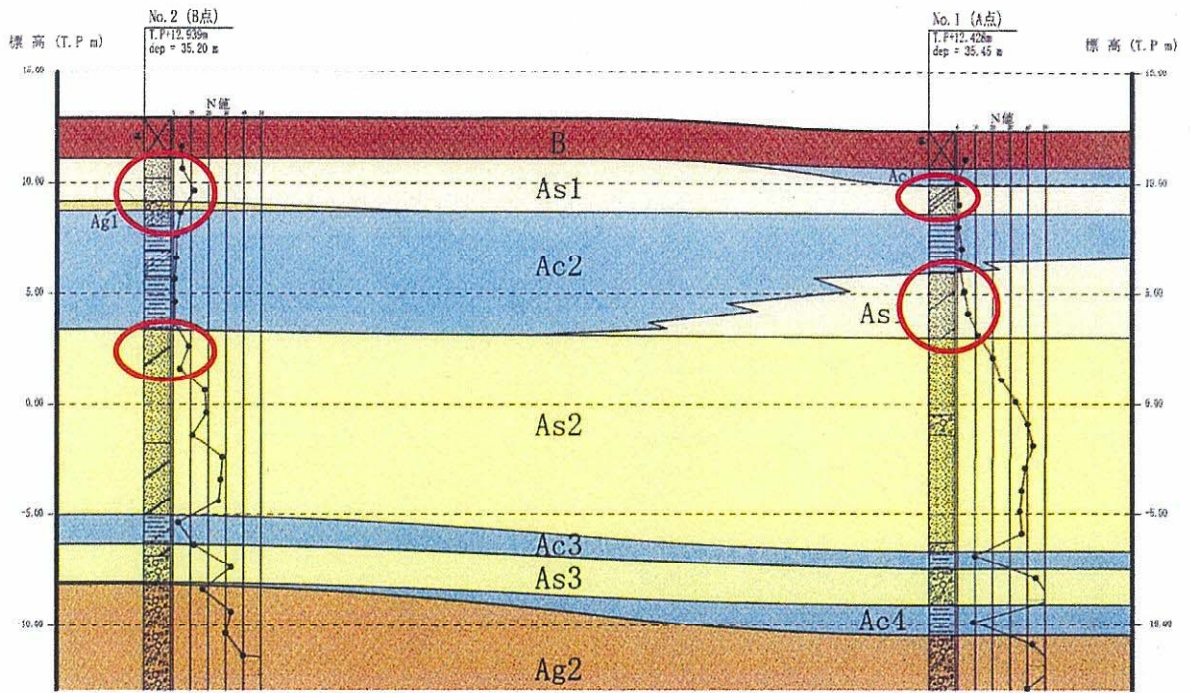


地質層序表

地質時代	地層名	記号	地工層名	N値分布	
				層厚 (m)	層数
新第三紀	沖積層	B	粘土	2	5
	第1砂質土層	As1	粘土	1	0
	第2砂質土層	Ac2	シルト質粘土層	4	9~12 (13)
	第3砂質土層	As3	粘土	1	1~4 (1)
第四紀	沖積層	As1	粘土	9	4~43 (28)
	第1砂質土層	Ac3	シルト	2	3~10 (6.5)
	第2砂質土層	As2	粘土	17	4~43 (28)
	第3砂質土層	As3	粘土	3	35~50 (42.7)
更新世	沖積層	Ag2	シルト	1	9
	第1砂質土層	Dc1	シルト	13	17~50 (32.4)
	第2砂質土層	Ag3	シルト	4	30~39 (34.6)
	第3砂質土層	Dg	シルト	9	11~50 (32.7)
	沖積層	Dc1	シルト	2	9~50 (28.5)

※N値は、試錐の打撃回数で測定量が50mm層の厚さを、100mm層として算出している。

図 4-1-1 調査地の地層推定断面図



○ . . . 液状化の注意箇所 (推定)

図 5-4-1 液状化に対する注意箇所推定図